



志翔の会 NEWS

Vol.04

【発行】令和6年3月27日

連絡先：松江市末次町 86 発行責任者：中村ひかり TEL：0852-55-5065 FAX：0852-55-5533

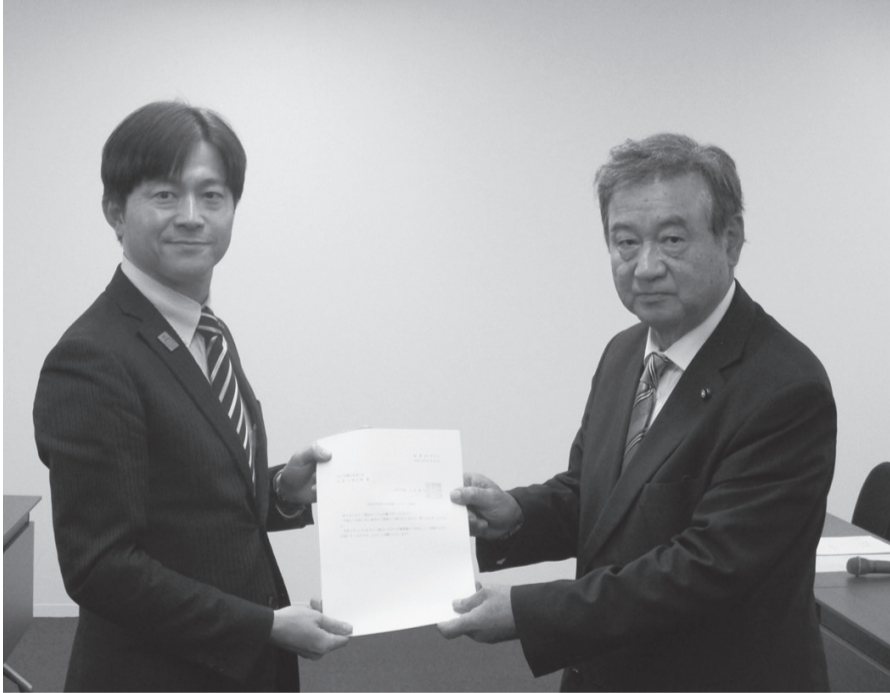
重点要望

- ① コロナ後の地域経済と物価高騰対策等のアフターケアについて
- ② まちづくり計画の推進において
- ③ 市民に愛される新庁舎を目指して
- ④ SDGs 未来都市の取り組みについて
- ⑤ 人口減少対策・子育て支援について

あなた 市民と歩む 

松江の未来へ

市長要望を行いました 



一般要望

- 子どもの貧困対策
- 公共事業について
- 道路整備について
- 市街地・拠点の整備・安心安全なまちづくりにむけて
- 農林業対策について
- 福祉対策について
- 多目的公園の整備等について
- 教育について
- 地域づくり政策の実現にむけて

広報委員長(子育て教育担当)
なかむら
中村ひかり



- ・ 教育民生委員会
- ・ まちづくり対策特別委員会
- ・ 新庁舎建設特別委員会
- ・ 議会広報等委員会
- ・ 議会広報委員長

総務委員長(文化・SDGs担当)
むらまつ
村松りえ



- ・ 経済委員会副委員長
- ・ 経済委員長
- ・ 穴道湖・中海問題等対策特別委員会
- ・ 議会広報等委員会

副幹事長(地域福祉担当)
いわもと まさゆき
岩本 雅之



- ・ 総務委員会
- ・ まちづくり対策特別委員会委員長
- ・ 新庁舎建設特別委員会
- ・ 国際文化観光都市松江市議会観光振興議員連盟副会長

幹事長(農業政策担当)
いしくら しげみ
石倉 茂美



- ・ 経済委員会
- ・ 議会運営委員会
- ・ 島根原子力発電対策特別委員会
- ・ 松江市総合計画特別委員会副委員長
- ・ 議員定数等調査特別委員会

副会長(人口減少担当)
いしくら のりふみ
石倉 徳章



- ・ 建設環境委員会委員長
- ・ 島根原子力発電対策特別委員会
- ・ 松江市原子力発電所環境安全対策協議会

副会長(島根県連携担当)
なんば いわお
南波 巖



- ・ 建設環境委員会
- ・ 穴道湖・中海問題等対策特別委員会
- ・ 松江市総合計画特別委員会
- ・ 境港出雲道路整備促進松江市議会議員連盟会長

会長(総合政策担当)
かわしま みつまさ
川島 光雅



- ・ 総務委員会
- ・ 予算委員会副委員長
- ・ 議会運営委員会副委員長
- ・ 総合交通対策特別委員会委員長
- ・ 議員定数等調査特別委員会副委員長

市民の意見を伝える

令和5年第2回2月定例会(質問項目) 岩本雅之

障がい者の就労移行支援事業について/仕事と家庭の両立支援事業について/自然に健康になれるまち推進事業について/コンパクトネットワークの推進について/人口減少防止(人口増加)対策事業について/観光振興事業について/各支所地域振興事業予算について/高騰する電気料金対策について/地方交付税交付金について/地方消費税交付金について/市町村経営の基本姿勢について/普通建設事業費について

障がい者の就労移行支援事業について

現在、松江市では、生産活動の機会から生まれる福祉商品を一体的に調査研究し、ブランド化に向けた取り組みを進める機関は存在しないが、今後、起業や一般就労を定着するためのプラットフォームとして、福祉版エコシステムの構築を図るべきである。

仕事と家庭の両立支援事業について

仕事の場合において「両立支援」がしやすい環境づくりに理解促進に向けた施策が必要だと思いが如何か。

自然に健康になれるまち推進事業について

市民が楽しみながら健康づくりに取り組める環境づくりに促進するため、今後、各部署で計画・実施するイベントや様々な「まちあるき」施策と連動したパッケージ施策を図るべきである。

令和5年第3回6月定例会(質問項目) 川島光雅

少子化対策について「松江市の本気度は」

質問

国は、子ども・子育て政策の強化・拡充を図る「子ども未来戦略方針」を示しました。「子育て環境日本一」を掲げて松江市も取り組んでいるが、それに呼応する財源確保はどのように考えているのか。また、松江市においてはA-コンシェルジュ、病児保育支援システム、不妊治療費助成、産後ケアや出産・子育て期までの切れ目のない新規事業があるが、岸田首相が先進地視察した財政力が小さい奈義町などはインパクトある政策で検討しています。松江市の本気度のある支援策を伺う。

答弁

「魅力的な子育て支援策を積極的に検討」

国は公費の節減等の効果及び社会保険負担軽減の効果を活用しながら、実質的に追加負担を生じさせないことを基本方針としています。松江市の独自政策については、川島議員の述べられた施策に加え保育料の軽減、小学校6年生までの医療費無料化や中学生までの入院医療費の無償化等や子育て世代の経済的負担の軽減に取り組んでまいりました。この4月にはご家庭センターを1年前倒しで設置し、妊産婦、子育て世帯、子どもに対してきめ細かな相談支援を行うとともに、子育ての日を制定し親子イベントやホームページに子育てに特化したサイトを立ち上げ市全体で子育てを応援する機運を醸成していきます。

令和5年第4回9月定例会(質問項目) 石倉徳章

観光のまち松江の創造(JR松江駅周辺地域の再整備)について/周辺地域の特性発揮の重要性(周辺部旧八束郡の再生)について

JR松江駅周辺地域の再整備について

国際・文化、観光都市松江は観光政策により持続可能なまちとすべきである。中心でもある松江駅周辺の再整備を急ぐべきである。駅の北口と南口の連携、一流ホテルの誘致、賑わい広場の建設、貸事務所や特産品売り場・大型食堂などの建設などであると考える。

周辺地域・旧八束郡の特性発揮について

各町村の特徴をいかし、周辺部の衰退に少しでも、歯止めをかけるべきで玉湯町・美保関町の一部など先進地域もある。地区住民の努力と行政支援により各地域に将来にむけ残すべき施設、地域文化・伝統行事、自然環境の整備など特色地区となれば生き残れる。松江市は、国宝松江城・六道湖・温泉・茶の湯等文化資産を有している。

(例) 兵庫県豊岡市は世界から注目されている
①コウノトリの生息地、②演劇の町、③かつての柳の通り製造から新しく靴製造の経済発展等である

令和5年第4回9月定例会(質問項目) 村松りえ

子育て環境の充実について

質問

子育て世代へのアンケートの結果、回答者の約9割が、本市における雨の日の遊び場が充実していないとの実感を持っていることがわかりました。このアンケートの結果を受けて、実際に整備された場所があるのでしょうか。

答弁

今年1月のアンケート実施後、雨の日でも遊べる空間とし

て7月22日に玉湯町の玉造温泉ゆ〜ゆ内にキッズパークを開設いたしました。また、乃白町の保健福祉総合センター内には、これまでゼロ歳から2歳児向けのあいあいを設置しておりましたが、新たに3歳から5歳児を対象としたわいわいルームを8月5日に試行開設いたしました。開設以降、8月末までにキッズパークは747人、1日当たり23人、わいわいルームは422人、1日当たり106人と多くの親子に御利用をいただいております。

質問

未就学児が遊べる遊具、誰でも使えるインクルーシブ遊具を設置されたところはあるのでしょうか。

答弁

未就学児が遊べる遊具は、令和4年度は11の公園に11基設置、令和5年度に5つの公園に5基設置される予定です。インクルーシブ遊具については、令和4年度に大塚山公園に1基設置したところです。

令和5年第5回11月定例会(質問項目) 石倉茂美

農家の機械の更新について

質問

農家が一番困っていることは、機械の更新のことです。新しい機械の購入には補助金がありますが、松江独自の対策をつくっていただきたい。

回答

近年の資材価格やエネルギー価格の高騰によりまして、農業経営に必要な経費が増大しておりまして、農業を取り巻く事業環境は厳しいものと認識しております。

従来は、新規就農者や既存の営農者の経営規模拡大を前提として、農業機械などの新規購入に対する補助制度が構築されてまいりましたが、人口減少や営農者の高齢化など規模拡大が見込めない中で、現在使用している農業機械を修理し長く続けることは、SDGsの観点からも有意義と捉えております。

今後、松江市農政会議などを通じて、営農者の方々のニーズを伺ってまいりたいと考えております。

令和5年第5回11月定例会(質問項目) 中村ひかり

子どもの食物アレルギーについて

質問①

松江市内には8か所の給食センターがありますが、給食センターによってアレルギー対応食の提供状況が異なります。

アレルギー対応食を提供できない学校26校にはどのような課題があるのか、その課題に対して今後の対応策を伺う。

回答①

現在、北、西、東出雲学校の3給食センターでは、調理場が狭いため、それらの専用スペースを確保することが困難な状況。

今後、施設の老朽化に伴う改修に併せて専用調理室を設置することで、安全性を最優先にしたアレルギー対応食を提供できるようまいります。

質問②

物価高騰は、弁当対応の家庭の家計にも大きな影響を与えています。給食費補助の相当額を支援するべきだと考えますが、市の見解を伺う。

回答②

今年度、保護者負担の軽減を図るため、給食費の値上げ額の半額を助成することとしておりますが、一方で中村議員御指摘のとおり、食物アレルギーなどの理由で弁当を持参している児童生徒もいます。こうした児童生徒の家庭も物価高騰の影響を受けており、児童生徒間の均衡を図る観点から、同程度の支援について検討したいと考えております。

令和6年第2回2月定例会(質問項目) 南波 巖

質問

自治体当局職員は、議会議員から質問、質疑されると、当たり障りのない答弁が最近とみに多いと感じている。日常、行政を進める上で課題事項について、行政組織として職員同士、そして関係機関とも協議、議論をして方向を出していることにもっと自信を持って答弁を述べるべきと考える。その上で、議会議員と議論を避けるのではなく、議論をして切磋琢磨して市政に取り組みべきと考える。御所見を伺う。

もちろん議会議員も自治体当局を批判すること、本来的なニーズから遠く離れた質問、質疑をして、自治体当局職員の間を分断させたり、萎縮させてしまっている面もあるかもしれないけど、こういう双方のやり方が積み重なって過ぎて、まちを共によくしていくという概念が取り残されることを心配する。

答弁

私(市長)を含めた執行部並びに本市職員は、庁内での協議や議論を踏まえて検討を重ね一定の方針を立てた事柄について、自信を持って議員の皆様と意見を交わさせていただくことを約束申し上げます。